



# チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

## 第101回「第51回衆議院議員総選挙の結果と今後の日本」

2月8日、第51回衆議院議員総選挙が行われ、高市早苗総理大臣が率いる自民党が地滑り的な大勝利に終わりました。今週はこの選挙結果から日本国民が政治に対する考え方の変化について考えてみたいと思います。

### ～自民党圧勝、中道改革連合大敗の要因～

2月8日投開票の衆議院議員総選挙は、ふたを開けてみると公示前議席が198だった自民党は、単独で総議席数の3分の2を超える316議席を獲得し圧勝しました。一つの党が獲得した議席数としては戦後最多となりました。自民党と連立与党を組む日本維新の会は公示前議席34から2議席増やし36議席を獲得しました。一方、立憲民主党と公明党が結成した中道改革連合は、公示前議席167から49議席に減少しました。なんと118議席を失う惨敗となりました。その他の野党では、国民民主が1議席上積みし28議席とし、参政党が2議席から15議席へ、チームみらいが議席無しから11議席を獲得しました。その他の野党は公示前の議席より議席を減らしました。

(選挙後の各党の議席数は裏面表1をご覧ください。)

自民党の圧勝を高市人気に乗ったためとする報道や評論家の方が多いですが、その人気の源泉は何なのでしょう？日本初の女性の総理大臣だからでしょうか？そのことも一つの源泉だと思いますが、もっと大きな源泉は、日本を復活させるための政策を明確に打ち出し、選挙でその公約を主張したことです。今回の選挙での最大の争点の一つは、景気・物価高対策でしたが、多くの政党は消費税ゼロや廃止を主張し、相変わらず分配の議論に終始していました。高市自民党は「責任ある積極財政」によって「強い経済」の構築をめざすという経済財政政策の基本方針を明示し、この政策に対し国民への信認を問う選挙戦としました。結果として、国民はこの政策を含め高市政権の種々の政策を信任することになり、選挙に圧勝しました。野党の中でも議席を伸ばした参政党やチーム未来も他の政党とは違う政策を主張したことが議席数を伸ばす結果となったと考えます。

国民の中に「稼ぎ」が少なくなっている（日本の潜在成長率は1%以下）現状で、これまでと同じ分配を中心とした政策で大丈夫なのかという疑念が膨らんでいたのではないかと思います。

### ～今後の政治に期待すること～

今回の選挙によって、政治家は「日本経済の成長」という観点から政策立案することが重要であるということに気づかされたと思います。デフレ経済が続いた30年間で日本人はすっかり自信を失い、人口減少で経済成長は見込めないとの考え方が染みついていましたが、世界から押し寄せたインフレの波が日本経済や日本人の考え方を変えつつあると考えます。野球やサッカーなどスポーツの世界では、既に日本選手の活躍は目覚ましいものがあり、世界から一目置かれる存在になっています。

日本経済も徐々にではありますが、必ず復活すると信じています。

今後、「日本経済の復活」を促進するような前向きで具体的な国会論戦が交わされることを期待しています。

表1

第51回衆議院議員総選挙後の政党別議席数 (2月9日現在)					
	政党名	議席数		政党名	議席数
与党	自民	316(+118)	野党	中道改革連合	49(-118)
	日本維新の会	36(+2)		国民民主	28(+1)
				共産	4(-4)
				れいわ	1(-7)
				減税・ゆうこく連合	1(-4)
				参政	15(+13)
				保守	0(-1)
				チームみらい	11(+11)
				無所属	4(-11)

(政党名は略称、( )は選挙公示日の所属議員数との比較、無所属は与党系、野党系の別なく表示)  
(西村証券作成)